

マイコン

わかる!動かせる!家族全員で楽しめる!

コンピュータの新しい活用法を満載!!

JUL.1995

7



特別定価

790 Yen

BASIC Magazine

特集

# 格安パソコン～最先端マシンまで 38機種が勢ぞろい!

●Panasonic「WOODY PD」●エプソン「Endeavor VT-75」●飯山電機「Hello V66」シリーズ●NEC「98MATE」新シリーズ●エプソン「PC-486/586」新製品●東芝デスクトップ&ノート新製品●コンパック「PRESARIO CDS524」●日本オリベッティ「ECHOS24C」●日立「FLORA1010」●沖電気「if Station590/DG」●日本IBM「ThinkPad」新シリーズ●クラスタック「ThinkPad530Cs-R」●富士通「BIBLO」新シリーズ●Panasonic「PRONOTE jet mini」

次世代の大容量メディアの主流はどれか?

超記憶メディア **光磁気ディスクMO<sub>S</sub>PD**

普及に拍車がかかる 期待の新メディア

Windowsプログラミング新!入門講座 ●Visual Basicの基礎を理解しよう ●F-BASIC/Win新バージョン登場

コンピュータだから楽しめる頭脳の体操 **誰でも打ち込める21本のプログラム**

特別付録

映像・音・情報  
データ満載の **CD-ROM**



デジタル・ビデオ(映像)

- 最新一体型パソコン情報
- 超記憶メディアMO&PDのくみ
- マルチメディア・コンテスト受賞作品集
- 風雲黙示録の各キャラ～発逆転技
- 最新ゲームのプロモーション・ビデオ

体験版ソフト

- ロータス・スーパーオフィス
- 日英翻訳TransLand for Windows
- 学研総合電子辞書 for Windows
- Windows版3×3EYES～吸精公主
- DOS/V版馬なりハロウ劇場

CDオーディオ

- 機装ルーガIIより
- パンツァードラグーン フルサウンドバージョンより

エレクロックエンターテインメント・エクスプレスレポート  
欧米に舞台を移した新世代機戦争の行方は?

**ウルトラ64の  
本体写真を入手!**

仕事の合間にホット一息  
Windowsのゲームを遊んでみよう  
●ROMMYEYES～吸精公主●ぶぶよ●レミングス

話題の対戦格闘ゲーム  
全ソフトファイターNEEDの  
全貌が明らかに



縦込付録 **167**本の新作ソフト完全掲載!  
パソコンからゲーム機まで……



# E<sup>3</sup>: ELECTRONIC ENTERTAINMENT EXPO

## エレクトロニック・エンターテインメント・エキスポ 欧米に舞台を移した新世代機戦争の行方は?

5月11日から13日、アメリカ・ロサンゼルスで行なわれたエレクトロニック・エンターテインメント・エキスポ(通称E<sup>3</sup>)。気になる新世代機の動向を、任天堂、セガ、SCE、3DOの4社に絞ってレポートしていこう。(取材・文/内田 聡)

E<sup>3</sup>  
ELECTRONIC  
ENTERTAINMENT  
EXPO

MAY 11-13, 1995  
LOS ANGELES, CALIFORNIA

REPORT

### ん?CESじゃなくて「E<sup>3</sup>」?

E<sup>3</sup>は、インタラクティブ・デジタル・ソフトウェア・アソシエーション(IDSA)という、エンターテインメント・ソフトウェアメーカーが加盟する団体の主催で行なわれたコンベンション。この時期にアメリカで行なわれるゲーム業界のコンベンションとしては、夏期CESが定番だったが、今回はE<sup>3</sup>がそれに取って代わる形になった。

ただ、CESはコンピュータ・ソフトも含んだ製品ロニクス製品全般が対象だったのに対し、E<sup>3</sup>はその名のとおり、エンターテインメント・ソフトのみの展示。つまりは、ほとんどゲームソフト・オンリーの、僕らにとっては端から端まで見て回っても退屈しない、そんな夢のようなコンベンションだったのだ。

日本では一足早く昨年末に発売されていたプレイステーション、サターンなどの新世代機も、ここアメリカでは、このE<sup>3</sup>がはじめてのお目見えになる。となれば、米国市場では少々苦戦を強いられている任天堂や3DOも、それに対抗するべく新たな戦略商品をこのE<sup>3</sup>で発表するはず?

というわけで、日本の倍ほどの規模を持つ、巨大なエンターテインメント・ソフトの胃袋、アメリカをめぐる、ゲームメーカー各社のしのぎあいは、いっそう激しさを増していく。もちろん、日本ではまだ見られない、現地のメーカーが作る新世代機最新ソフトもてんこもりである。おいしそう、でしょ?



BY BRENT SHAYER

### NOMO DREAMS NO MORE

From the "Land of the Rising Sun," Hideki Nomo is a star in his homeland but he has dreamed of taking his game to a new level by playing baseball in the United States.

The opportunity to sign a minor league contract and earn a lucrative bonus with the Dodgers on February 13, 1995, meant that Nomo had made the difficult decision to retire from the Kintetsu Buffaloes team in Osaka, Japan, to sacrifice being with his wife and three-year-old son at home and journey from a country that idolizes him as a star to America, where he knows little about the culture and English language.

In a complete reversal of roles from the Tom Selleck movie, this "Mr. Baseball" now has traveled from the Far East to the United States to play. It is not a decision that came easily, but one that breaks down barriers and most certainly will have rippling ramifications, as it once again opens the doors for future players to make similar decisions.

In Nomo, the Dodgers feel they have landed a special individual, as well as a talented performer. The 26-year-old right-hander pitched professionally for the Buffaloes for the past five seasons and won the Sawamura Award, Japan's equivalent of the Cy Young Award. He was also named Rookie of the Year in Japan in 1990, when he amassed an 18-4 record with a 2.91 ERA and had 287 strikeouts in 255 innings pitched.

Nomo was a five-time All-Star. His five-year totals are impressive: 78-46 record, 3.15 ERA, 1,204 strikeouts in 1,011.1 innings and 80 complete games in 159 pitched. In 1994, he was 6-7 with a 1.65

ERA before his season was cut short due to arm problems. However, he is healthy and ready to make his comeback. Nomo was also a member of Japan's silver medal winning team at the 1992 Olympic Baseball competition in Seoul, Korea. But, something was missing for him personally. He had a burning desire to prove that he could play and compete with the "big boys" in Major League Baseball.

Pitching has been an integral part of the rich heritage of the Dodgers throughout the years with such stars as Don Newcombe, Johnny Podres, Carl Erskine, Sandy Kousser, Don Drysdale, Don Sutton, Claude Ottens, Bob Welch, Hart Hooten, Fernando Valenzuela and Orel Hershiser excelling on the mound.

Last season, the Dodgers signed right-hander Chan Ho Park of Korea to a contract and along with 1993 top draft pick Darren Dreifort, they were the 17th and 18th players since the amateur draft began in 1965 to make their professional debuts in the major leagues. Before finishing the season in Double-A San Antonio, Park pitched in two games for the Dodgers in April.

In the long tradition of international baseball involvement under the guidance of President Peter O'Malley, the Dodgers have opened the globe for talent. Currently, players from 14 different countries are now represented in the organization. The players hail from the Dominican Republic, Venezuela, Mexico, Ecuador, Puerto Rico, Australia, Brazil, Cuba,

Dodgers

①ニンテンドー・オブ・アメリカ (NOA) の最新ソフト「ドンキーコング・カントリー2」では、なんと主人公のひとりにメソゴリカ登場。メスなんだから、ボニー・テールが見えるでしょ?とうとうまじったワルト64。でも、もちろんこれは米語名。ウワサでは「ワルトファミコン」が旧本名になるとか、ならないとか。会場で見られれば広告用?のポスター。キース・ヘリング風のデザインがイカサ。場所柄(LA)、会場の雰囲気もアカ抜けた②SCEアメリカのイメージ・アド。「ハマリ度MAX」にはアツだが、会場のビジュアルで飲み物を頼むとか、そのカップにもなんどこの「ハマリ度MAX」オヤジが……。SCEは意外お隣りモンだ。という会場の風景ができてしまったよう③セガブースでアーケード版「バーチャル」うれし④サービス⑤米国のサードパーティーがワルト64ソフトのスニーク・デモを。写真はゲームデックの「ロボテック」。ビデオだけなんて、なんと⑥12日の夜には、地元ドジャースの本拠地で、あの野村が登壇。日本からのE<sup>3</sup>関係者が大勢して野村親親に会いに行くのって、肝心のビッチングは乱調きまだったけど⑦E<sup>3</sup>会場のコンベンション・センター点景





# 米国任天堂 ソフト ハード アタマ隠して尻だけ見せたウルトラ64

新ハード「ウルトラ64（米国名）」をベースにしたアーケード版『キラースティンクト』『クルージングUSA』を登場させて以来、騒々メディアにどこ吹く風の沈黙を決め込んでいた任天堂。だが、とうとう家庭用機のハード外観を発表するに至った。ただ、発表はハードの外観（の写真）だけ。注目されていた対応ソフトの展示などはナシ。

発売時期などは、アメリカでの発売が、当初の今年秋から96年4月へ変更され、価格は変わらず250ドル（約22,000円）。ただ日本での発売時期（今年末）に変更はないとのこと。

会場ではサード・パーティが制作進行中のウルトラ64用ソフトをビデオでデモったりしていたが、それも相当のダイジェスト版で、実像はわからずじまい。ソフトに関しては、秋の初心会に含みを持たせた感が強い。

ブースのメインは、『キラースティンクト』『ドンキーコングカントリー2』などのスーパーNESソフトや、バーチャルボーイなど。サード・パーティのスーパーNESソフト展示が少なくなっていたのが寂しいが……。



▲会場でのメイン展示は、『キラースティンクト』のスーパーNES版。ステージ上でダンサーのお姉さんたちが踊るアトラクションもあじみ

▼高級感はあるが、意外にオーソドックスではある。全体的に丸みのあるデザインに、任天堂「らしさ」を感じなくもない。ソフトは以前の発表どおり、ROMベースのカートリッジだ



## キラースティンクト KILLER INSTINCT（スーパーNES用）

多少グラフィックのキレが落ちているほかは、アーケード版のほぼ完全移植。もちろんレア社の制作だ。ただ、日本ではまったく発売の予定なし（日本の任天堂広報）とのこと。



## ドンキーコングカントリー2/ドンキーコングランド DONKYKONG COUNTRY 2（スーパーNES用）/ DONKYKONG LAND（ゲームボーイ用）

『2』は、基本的なシステムはそのままだ。新たなキャラクターとステージで構成されている。完全な前作の続編だ。今回はコングの仲間2人が主役を張る。『ドンキーコングランド』は、『ドンキーコングカントリー』で使われたACMというキャラのCGモデリング技術をゲームボーイに応用したものだ。

▲サブタイトルは「デディのコンクエスト（コング捜し）」のさげられたドンキーを探したのがゲームの目的だ



▲バーチャルボーイには、とくに新しいソフトはなし。みんなして覗き込める光景はちょっと異様

▲『ドンキーコングカントリー2』はやっぱり人気。人がたかっちゃって、遊べないんだもの

## 懐かしの名作がGBに……！

任天堂ブースをウロついていると、いつになくにぎわっているゲームボーイのコーナーが目につく。「いまさらゲームボーイでもないだろうが」。フンと鼻を鳴らしながら近づいていった僕の目に入ってきたのは、なんと今とはなき懐かしのアーケード・ゲームたちの、ゲームボーイへの輪廻転生であった。

これらのゲームは『ギャラガ』『ギョラクシ

アン』『ミサイルコマンド』『アステロイド』『ディフェンダー』『ジャウスト』など、いわゆる「2in1」タイプのもの。もともとがシンプルなので、ゲームボーイで再現しても無理がない。遊べるソフトに仕上がっているのだ。

『ギャラガ』『ギョラクシアン』は、日本でもナムコから発売されるけど、ほかはすべて日本での発売予定なしとのこと。残念。



◀ちなみに女の子のコングはディキシという。人気でるかね？



▲超リアルなグラフィックのGB日コング。なんか、すごくヘンだぞ。日本発売が待ちどおしい